マーケットデイリー
SMAM
（No.2,358）
〈マーケットレポートNo.4,584〉
2015年12月25日 情報提供資料
資産形成なら SMAM

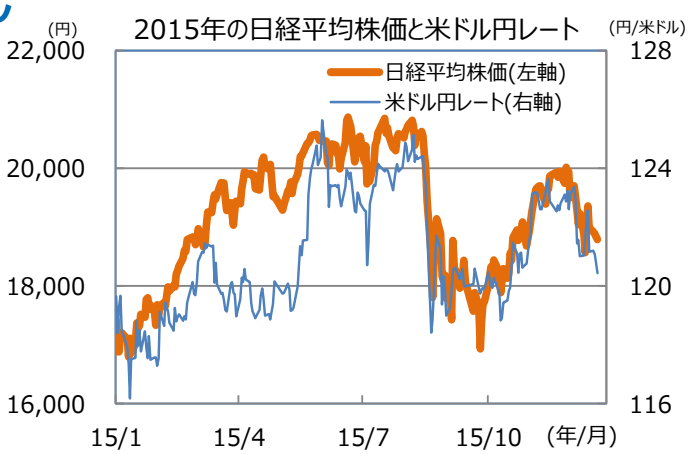
今日のトピック 2015年の振り返り（日本の株式市場）

ガバナンス元年となった日本株式市場

ポイント1 年央まで量的緩和が後押し

チャイナ・ショックで調整

■2015年は、資源国経済やギリシャ政局に対する警戒感などから調整して始まりましたが、1月22日のECBによる量的緩和の導入決定を契機に年央まで世界的な株高となりました。日経平均株価も1月14日の1万6,795.96円の底値から6月24日の2万868.03円まで＋24.2%上昇しました。8月は中国経済の腰折れ懸念や人民元の切り下げを背景とした世界同時株安（チャイナ・ショック）から調整を余儀なくされ、それ以降は米ドル円レートとの連動性が強まりました。12月は米国の利上げ前後から再び円高基調に転じ、日本株式は軟調な推移となっています。

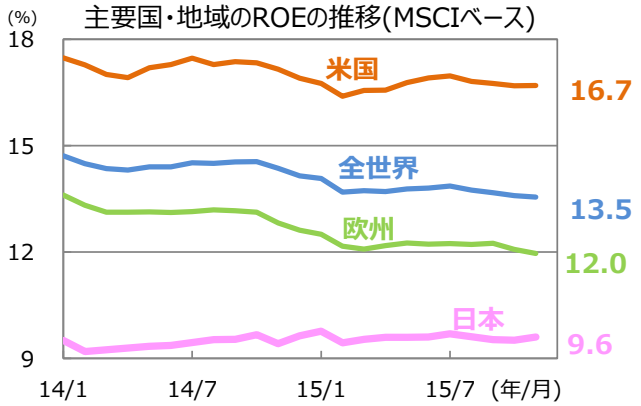


（注）データは2015年1月5日～2015年12月24日。
（出所）Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 コーポレートガバナンス元年

ROEは若干上昇

■2015年6月1日から「コーポレートガバナンス・コード」の適用が開始されました。企業の積極的な行動を促し、成長軌道に乗せたいという思いが込められています。株主資本利益率（ROE）は企業を見る指標の一つとして注目されることとなりました。14年以降でROEを国際比較すると、日本は、他が緩やかに低下する中、若干ですが上昇しています。中期的に欧米の水準に向け、上昇していくかが注目されます。



（注）データは2014年1月～2015年11月。数値は直近の値。
ROEは今後12カ月の予想利益を用いて計算。予想はFactSet。
（出所）FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 企業業績プラス政策発動期待、ガバナンスに引き続き注目

■2016年は、米国景気の緩やかな回復と利上げ、日欧の量的緩和の継続を背景に米ドル円レートも落ち着きを取り戻すと思われ、これらの要因は日本株式にとってプラスになると期待されます。また、7月の参議院選挙を前に景気の足取りを確かなものとするための政策にも期待が高まりそうです。企業業績の面では16年度も過去最高益の更新期待が強いものの、これまでと異なり、足元のキャッシュフローの活用方法が問われそうです。ガバナンス2年目の企業と投資家の対話が引き続き注目されます。

ここもチェック!
2015年12月24日 2015年の振り返り（世界の株式市場）
2015年12月22日 2016年の日本経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。